

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1270901588		
法人名	有限会社ぐるうぶほうむ礎		
事業所名	ぐるうぶほうむ礎		
所在地	船橋市行田3-2-22		
自己評価作成日	2019/11/12	評価結果市町村受理日	令和2年1月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	NPO法人ヒューマン・ネットワーク
所在地	千葉県船橋市丸山2-10-15
訪問調査日	令和1年11月26日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

利用者が安心して最期を迎えることができる施設で有る為に、努力は惜まずチームケアに力を入れております。特に私どもの施設は医療、看護、介護部署共に10年以上の在籍職員が多数おり、非常に連携が取れている環境にあります。なれ合いにはならず、高水準のケアができるよう日々研修や外部勉強会に出席するなどして切磋琢磨しあっております。そのすべてを利用者の介護のためにフィードバックし、今のチームケアが実現できています。利用者におかれましては、日々の生活そのものがリハビリで有ることを説明しています。機械的なリハビリではなく、その方の生きるために必要な生活動作が何よりのリハビリですと伝え実践してもらうように努めています。介護保険法第4条に則り、利用者個人々々が生きていくための努力を行って生活していただけるように、援助・助言するように努めております。利用者、その家族と意見がぶつかってしまうこともあります。優しさだけでは利用者は守れないことをご理解していただき、本当に生きるために必要なほんの少しのお世話を我々は全力で行っています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

事業所の優れた取り組みは①「看取りは居宅で、家族と共に」「能力を出し合い、共に生きる」等を理念に掲げている。②命を守るために職員に高いレベルの介護技術を求め、チームケアを追求し報告・連絡・相談、丁寧・正確・詳細な記録が実践されている。③上下関係のないフラットな組織であり、職員は理念と対峙し自己の責任を自覚して支援をし、ホーム長や管理者と話し合っている。④長期入所により重度化した利用者の増加に対し優れた医療連携を図ると共に、2名の看護職を配置し医療の知識を介護職に伝え、殆どの職員が経管栄養や喀痰吸引など医療行為資格を得るなど、健康管理と疾病の早期対応が徹底され、利用者は安心して過ごしている。⑤医師も看護師も介護職も共通の立場の意識のもと、一丸となって利用者の「命を守る」介護に取り組んでいる。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	看取りは居宅で家族とともにを企業理念に掲げてサービスを行っております。住み慣れた場所で終の棲家になるべく、医療看護とも連携を図り、安心して暮らせるよう援助を実施するようしております。	「家族と共に、能力を出し合い共に生きる」「命を守る」介護を理念に掲げている。他の施設では対応が難しい方を多く受け入れ、全力で取り組み、終の棲家として人生の最後まで寄り添う支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会活動への参加や民生委員としての活動等を通して地域との連携や情報の共有に努めております。地域商店街での購買を可能な限り行っています。地域の一人として積極的に近隣資源を活用するようしております。	2名の職員が民生委員を務めており、自治会と協力しながら介護困難事例等を居宅介護支援事業所につなぐ役割を果たしている。地域交流ルームを団地内に開放し、ケアマネジャーが血圧測定や介護相談に応じるなど地域の一人として日常的に交流に努めている。	地域交流ルームでは介護相談等の役割も担っているが、更に地域住民に対し認知症に対する啓蒙や当施設の取り組み等を発信し、今以上に地域福祉の拠点となる取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	当事業所付近の団地にお住まいの方や近隣住民の方が不測の事態に見舞われた際、地域の認知症対応施設として、一時的な受け入れをする役割を果たしております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一度運営推進会議を実施しております。利用者ご家族からの具体的な意見などを参考に実際の介護現場で取り入れる内容等もあります。民生委員さんや地域包括の方からの貴重な意見や情報も共有するようしております。	運営推進会議はご家族、民生委員、自治会長、地域包括支援センター職員の参加を得て、入居者の現状を伝えている。入居されたばかりのご家族に対して、他のご家族から施設の理念に基づいた介護の説明があるなど、嬉しい報告が行われていた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	何か分からないことがあった場合など、施設の判断だけで解釈せずに、船橋市の担当課に連絡を取るようにして適切な行動をとれるように連携を図っております。必要な時は面会予約を取り、担当者の方に助言を求めて内容を精査することもあり情報の擦り合わせに努めております。	市の生活支援課と連携して生活に困窮した方の支援に取り組んでいる。また、監査指導課とは医療加算等の申請について随時相談を行い、介護保険課とは事業所の状況等を伝え連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0を念頭に置き、全職員が人間の尊厳を冒さぬケアを実施するよう日々努力しております。外部研修にも積極的に参加しており、基礎課程研修～管理者課程プログラムまで履修をしており、現場に学んだことをフィードバックしたうえで皆が正しい理解を出来るように努めております。	身体拘束ゼロを目指し、グレーゾーンの対応など職員一人ひとりが、常に身体拘束について日常業務の中で意識して取り組んでいる。研修や勉強会を重ね、職員同士で代替的な方法を話し合い、利用者の尊厳と命を守る介護に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	船橋市高齢者虐待防止マニュアルを基本に虐待を未然に防ぐよう内部で研修する機会を持っている。外部の研修にも積極的に参加し情報の共有を図っています。些細なことでも虐待では？と疑問を持つようになっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修や外部研修を通じて理解を深める機会を設けております。日常自立支援事業と成年後見制度の違いを正しく理解できているかなど皆で確認しつつ、必要である方への対応に努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	強制するような契約が行われることがないように、注意を払ったうえで取り交わすようにしております。利用者及び家族の方が、納得をしていただくための締結となりますので安心して入居していただくような配慮を怠ることのないようにしております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	主に運営推進会議の場にて家族の意見や要望を聞くことに努めており、その内容等を毎日のミーティングにて報告し日々の改善に努めるようにしております。家族が面会にお見えの際に時間を作っていただきご本人の状況を報告したり家族の意見をお聞かせ願うこともあります。	運営推進会議で家族意見の収集に努めている。また、家族面会時に利用者とは離れて話し合う時間を設け、要望や意見を引き出すよう努めている。その意見や要望は職員間で共有し運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	特別な存在はおらず、だれもが経営者であるという意識をもって仕事に向き合うようにしているのがこの会社の特色です。意見の分かれ食い違い等は当然ありますが、誰の何のためのものなのか？すり合わせを行いつつベストな運営を目指せる努力を、職員一人一人の持つ力でっております。	「一人ひとりが管理者であり、経営者」の考えで、ボトムアップを重視している。職員は常に利用者にとって最善の方法を考え、話し合いながら仕事に向かっている。職員意見の分かれることもあるが共有し、チームとして命を守る介護に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表やホーム長が常に近くに来ていただいているので、管理者や職員が安心して仕事に取り組むことができる環境にあります。法改正ごとに様々な対応を迅速にとり、皆に情報をきちんと与えてくださっています。働き続け易くする為の対応を日々考えて実行して下さっております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間スケジュールを作って内部研修は実施されていきます。時々に応じて更に必要なことは別途研修を行っております。外部研修はその職員のキャリアに適した研修に年間を通じて参加してもらうよう機会を確保しております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	主には外部研修を通じてのネットワークづくり、管理者としてはグループホーム連絡協議会に参加しての意見交換などで情報の交換や交流を図っております。より良いものは当事業所にて取り入れるようにしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	じっくりと話し、ご本人の意見や思いに丁寧に耳を傾けることを実践しています。当法人の理念に金太郎あめの介護というものがああります。誰がやっても同じ介護を行うようにしております。ご本人にいつでも同じ環境を提供できるようにすることにより安心を確保していただけるよう努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	まず全ての要望に対して可能な範囲でサービスを導入することは伝える。どうしても叶えられない旨の要望があった場合は、きちんと導入できない理由を説明し納得していただいたうえでサービスを行っていくように関係を築く努力をしております。先々のビジョンの中にならずに可能なサービスが出てくることもあることを合わせてお伝えし、本人の生きる目標としていただくこともお話をしております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	認知症介護のプロとして、介護分野での最大限のサービスが提供できるような配慮を心掛けています。ただご本人のADLやその他疾患等での悩みなどもきちんと聞き取り、必要であれば医療サービス等の案内や手続きも柔軟に対応するよう努めております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護保険法の目的を核に、お互いが対等な関係で共に生きていくことを目的としております。できる限りの残存能力を生かしてもらような介護を実践するように努めており、ご本人にも協力を求めさせていただいております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ケアプラン作成の際や、更新の時期などの要望等に加えて、家族会での意見交流なども利用してご家族の本意を聞き取るように努め介護の実践へと反映させていくよう努めております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	キーパーソンを通して出来得る限りの馴染みの方との面会等は可能な環境を提供しております。外出や外泊なども柔軟に対応しております。私ども事業所も最後まで時を共に過ごす馴染みの関係を築くよう日々努めております。	友人と外食に出られる方や選挙に行かれる方もおられる。また、リハビリを兼ねて一時帰宅される方の送迎支援も行っている。友人やご家族の方がいつでも訪問できるよう面会時間は柔軟に対応し、職員全員でお迎えしやすい雰囲気作りに努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自然と興味がわくものや、関わりたいもの、行いたいもの、個々人で違うことは当然ですが、無理強ひせず自然に起こる関係性を大切に見守るように努め、可能な限りの環境を整備するように努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	日ごろからの信頼関係の構築を図ることにより、今でもサービスが終了した方のご家族とも交流があります。当事業所では地域のコミュニティの一部として機能することができるよう、いつでもご相談していただければと考えております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で想いや考えを伝えてくださる方々もいらっしゃいます。まずその思いに耳を傾け、皆でその情報を共有するため、こまめにミーティングを開いたりなどしてケアプランに落とし込むよう努めております。ご本人の意に沿うことができない場合は、何故そうなのかをきちんと説明しご理解をいただけるような対応も致しております。	入居時に把握した利用者、家族の思いや希望に加え、入居後に職員が気が付いたことを申し送りノートに記載し職員間で共有している。言葉や意見が伝えられない方でも、表情や態度をつぶさに観察し意向の把握に努め、一人ひとりの利用者が穏やかに生活していけるようチームで日々取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	書面だけでは測れない様子を把握するため、前任のケアマネ様、ケースワーカー、前施設の担当者の方等にお話を聞かせていただくなどしてそのかたのバックボーンをより深く知るよう努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護職と医療職が密に連携を図り状況の把握に努めております。利用者個々に担当制を敷いておりますのでより深く状態の把握にも努めより良い生活が送ることができるよう努めております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	まずご本人がどう過ごしていきたいか、どのようにしてほしいかの聞き取りをきちんと行ったうえで、介護保険第4条に則って可能な限りにおいて自分で出来ることは自分で行ってもらうようお伝えをし、本人が納得の上自立に向けた前向きな介護計画が作れるよう努めており、ご家族にも説明のうえ協力を仰いでおります。	利用者、家族の要望や希望を共有し、利用者の残存機能を生かせるような介護計画の作成が図られている。また、利用者の自立のために一方的なサービスにならないように伝え理解を図っている。家族アンケートでも介護計画について丁寧な説明を受けているとの高い評価があった。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の方に担当制を敷いており、普段の様子を確認し皆へ情報を提供し相談も行いつつケアに反映させております。仕事の中で皆で個々の方のことで気づいたことは担当でなくても全職員共通認識として情報の共有に努めております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	住み慣れた環境で看取りまでを、ご本人と家族とともに行うことが当事業所の理念です。ご自宅にいた時のような状況を可能な限り整備していくよう努めており、総合的な在宅支援の機能が存在出来るよう取り組んでおります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人や家族へのアセスメントの中で出来得る限りの地域社会資源を見つけられるよう努めております。その他運営推進会議や家族会を通じて、使えることのできる地域資源はないか、相談しつつ可能性を広げるよう取り組んでおります。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人が長らくかかれていた医療機関に出来得る限り受診ができるようにしております。通院には必ず当事業所の介護職員が付き添うようにしているのが特色であり、強みであります。細かな情報の共有ができており、家族への報告等も速やかに行うことができしております。	かかりつけ医としている往診医とは、急な体調変化時にも24時間連絡が可能で施設職員との連携も図られている。歯科についても往診が実施されているが、その他の専門医の受診が必要な泌尿器科や眼科への受診の際は、介護職員が同行して症状や日々の様子を伝え、受診結果については家族への報告が実施されており、本人および家族の安心につながっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に状態の報告等は看護職には行っております。毎日の朝礼時において、更に日々の詳細な報告を行い相談もできる環境にあります。必要に応じてすぐ対応してもらえる支援体制をとっております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	当事業所では、介護・看護・ケアマネが密に連携を取り合い情報を共有しあっており、迅速な対応が出来るよう日々心掛けております。医療機関様にも、こまめに連絡を取るよう心掛け、連携がスムーズにいくよう努めております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療行為・延命に関しての意思確認書を、早期に取り交わしております。ご本人、家族が安心して暮らせるように努めております。意思確認書はいつでも何度でも考え直すこともきちんとお伝えしております。ご納得いただける最期を迎えることができるよう、介護・看護・主治医等チームで当たらせていただいております。	契約の際には、「看取り介護指針」に基づき丁寧な説明が行われている。施設では、最期の時まで支援することを使命としており、本人・家族・職員がトライアングルで意思確認を繰り返し行いながら、看取り介護計画を作成して、その人らしい最期を迎えられるように努めている。職員の一人ひとりが、チームケアを意識し大切にしながら、全人的なケアを提供している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に備えたマニュアルを作成しております。日ごろは内部研修を通じて各々知識を得、実践練習等にてシミュレーションを図っております。必要に応じて、消防に出向き救命講習を受けるようにして質の確保に努めております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害に備えた避難計画をマニュアル作成しております。毎日の朝礼にて初期対応等を踏まえたマニュアルの朗読を行っており、日々イメージを保つよう努めております。そのほか定期的な避難訓練を通じて職員、利用者共に共有を図っております。	年2回実施されている防災訓練では、夜間想定も取り入れながら、通報訓練・初期消火訓練・避難誘導訓練が行われている。毎日の朝礼時には、火災発生時の手順がまとめられたチャートの声出しと指差し確認を実施しているため、職員の行動が定着しており防災訓練時にもスムーズに対応ができています。また、消火器の場所チェックも頻回に実施されている。	防災訓練については、消防の立会いの下に実施し、それぞれの訓練の実際について評価やアドバイスをもらい以降に活かしていくことが望まれる。また、近隣住民による避難誘導後の見守り等の協力が得られるような共同に関する検討が行われていくことにも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇委員会の設置とともに事業所としての最低限度のマナーの維持に努めております。日々においては内部研修を通じてその方の守るべきものをチームとしてきちんと守る努力をしております。こまめなミーティングを重ねたりしながら皆で正しい共通理解の共有を図るようにしております。	法人内の接遇委員会での検討内容をもとに、施設においてマナーについての内部研修を実施している。個人の尊重を意識して、馴染みの仲であっても一線を越えた言葉づかいにならないように留意し、職員同士が互いにチェックしたり注意し合ったりしている。それぞれの居室に入る際も必ずノックと声かけを行うよう、プライバシーにも十分な配慮がされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なかなかご本人の思いを口にできる方が少ないのが現状でございますが、可能な限りにおいて聞き出す、傾聴することの繰り返しの中その方らしい支援を見つけたいよう努めております。わからないものはBS法を使うなどしてニーズを引き出すことも試みて自己決定できるように支援しております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	24時間ケアシートでの日常記録を行う中で、その方の日常の流れを把握したうえで、一日の様子を理解したうえでケアに落とし込むように努めております。無理強いすることのない生活を送っていただく配慮をしております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今までの暮らしや、生活をその方らしく継続できるように出来得る限りの対応をしており、必要に応じて準備などもさせていただいております。季節感の失われてしまった方などは、家族の協力を得るなどして清潔で季節に合った身だしなみができるよう支援しております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	医療職・看護職の協力を得て、出来るだけ経口摂取が出来るように支援しております。嚥下の能力を見極めつつ食事の形態を変えながら、その方が食事を続ける楽しみを持っていただけるよう努めております。食事の準備に関わることができる方は少ないのですが、テーブルを拭いたり下膳の手伝いをしてくださるかたなど可能な限りで力を発揮していただいております。	食堂のテーブルには、季節の生け花や熱帯魚の水槽が置かれており、利用者の目を楽しませている。普通食、ミキサー食などの形態やゼリー・エンシュワなどの捕食、使用する箸やスプーン、器についても一人ひとりの状況に応じて細やかな対応がされている。誕生日のケーキや赤飯、お子様ランチ風の盛り付けは、人気があり楽しみにしている利用者が多い。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医療職・看護職とも密に連携をとって、個々人の栄養や水分量などを決めております。必要に応じて嚥下機能の評価をお願いするなどして、状態の把握に努めております。飲食量の低下のある方などには、種類や形状を変化させたりする工夫を凝らして摂取していただく支援も行っております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科診療を取り入れさせてもらいケアに当たっている方もいらっしゃいます。歯科医師の指導等に合わせた個別のケアにも取り組んでおります。口腔内の状態に応じて使う道具とも変え、日々清潔保持につとめております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24時間ケアシートにて日々の記録を行う中で、排泄のタイミングを計りつつパターンの把握に努めています。個別のリズムがつかめるまでは食事の前後に排泄を促すようにさせてもらい、リズムが作れるよう努めております。	利用者個々の排泄パターンについては、24時間シートに細かく記入していくことで把握を行っている。把握された排泄のタイミングや使用するパッドの種類、ケアの方法等については、利用者全員分が一目でわかるタイムスケジュールに記載されているため、ケアの標準化も図られている。内容に変化が生じた場合はタイムリーにスケジュールの変更も実施されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご本人の病気(持病等)の確認をきちんと行うことをまず基本として、生活改善で対応可能なものか薬の服用が必要なのかなど医学的な判断をかかりつけ医に相談しつつ改善や予防に努めております。なるべく薬を服用せず自然に排便できるよう取り組んでおります。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	最低限週二回以上の入浴を実施しております。個々の状態に応じて、リフト浴・シャワーチェア・寝たきりの方などには二人対応を行っており、安心して入浴ができるよう努めております。特別な事情の際は昼夜問わず対応しております。	週に2回実施されている入浴は、利用者個々の状態に応じて、普通浴、シャワーチェア、リフト浴で行われている。脱衣場はヒーターを用いて寒くならないよう温度管理を行い、滑り止めマットを使用して安全性にも配慮している。入浴の際は、全身の皮膚状態の観察の機会となることを意識して、職員はプライバシーに配慮しながら念入りに確認を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	思い思いの過ごされかたを皆様しておられます。生活リズムがうまく作れない方に対しては、職員のほうから休息の促しをして休んでいただくようにしてもらっております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	通院及び訪問診療時の医師の指示をきちんと介護職・看護職が情報を共有するよう努めております。服薬準備・内服確認は必ず二人以上でのチェックを行うようにし、誤薬がないよう細心の注意を払っております。毎日の朝礼時に変化の有無等を報告し皆で確認しあうよう取り組んでおります。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの情報を本人を含めた、周りの方々にお聞きし行えるものをひとつづつ一緒に見つけていくよう努めております。洗濯物関わりや読書・お化粧・・・一人ひとりの好みや日々の張り合いを提供できるよう取り組んでおります。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に外気浴を実施しております。介護度の高い方もリクライニング車いすを使用して外に出て、四季を感じていただけるよう努めております。一時帰宅などを定期的に行っている方もおり、必要に応じて遠出や外泊も出来るよう支援もしております。当事業所敷地内には、季節を感じていただけるような木々や花、果樹等もございます。	施設の入り口や敷地内には、多くの草花が植えられており四季折々の変化を感じることができるよう配慮され、日常的な外気浴を楽しんでいる。施設職員により団地の広場への散歩やコンビニエンスストアへの買物支援も行われている他に、家族が面会に来た際には、車で外食に出かけたり、ドライブに行く利用者もあり、希望によっては外泊も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には当事業所ではお金の管理は、ご家族の方にお願いしております。買い物支援は利用者さんとともに職員が付き添い、支援できるように取り組んでおります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を使用することが可能な方においては、外の公衆電話を使用していただくようお願いしております。他の方に関してはご家族の方からお掛けいただくようお願いしております。手紙などは職員がお手伝いをして書くことができるよう支援も行っております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾りっており、季節を感じていただけるようにしております。温度は時間毎に全部屋空間のチェックを行っており快適な環境を維持できるよう取り組んでおります。ご利用者の程度反応に応じて採光の調整を行うこともあります。	リビングのテーブルには、小さなスタンドミラーが複数設置され、整容に使用したり、隣人との境としてプライベート感を演出したりして居心地よく過ごせるように工夫されている。廊下を含めた共有空間は、職員によって温度湿度の管理を実施している。また、採光については、眩しすぎて刺激とならないようにカーテンの開け閉めにも細やかな配慮が行われている。	玄関から廊下、各居室の導線については、車椅子およびストレッチャーが通れるように最小限のスペースが確保されているが、利用者家族から荷物が多く火災が心配とのアンケートの声も聞かれているため、有事の際の安全対策も含めて検討を重ねていくことが望まれる。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にソファや、テレビ、雑誌等を設置しており皆さま思い思いに活用されております。時折職員を交えて皆で談笑したりなどご利用者と職員のコミュニケーションの場としても活用しております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の残存機能を生かせる居室作りを心掛けており、ご本人が安心して居室空間を利用できるような配慮をいたしております。お使い慣れたものの持ち込みも可能な限り受け入れております。	利用者のほとんどは、居室でゆったり過ごしていることが多い。職員は、自分らしい居心地の良い居室となるよう、本人の意向に沿った空間作りを心がけて支援している。全居室には加湿器が備えられ、温度湿度の管理と利用者個々の心身状態に応じた安全面の配慮については、ミーティングで繰り返し検討が行われて最善の策が実行されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	視覚的にご理解いただけるよう、お手洗いの看板などの設置や必要な方には居室の名札を設置するなどしております。居室内に失礼のない範囲で物の使用方法などをお手紙にてお伝えするなどの取り組みも行ってあります。		

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	地域住民の方へ積極的な情報発信や認知症に対する啓もう活動を行っていない。	地域の方に地域福祉の活動拠点となりうる存在であることを周知し、当施設への認識及び理解を深めていただく。	当施設以外に近隣に地域交流ルームがあることで比較的構えずに介護のことについて、情報や相談などに乗ることが出来る場所があることなどをもう少し分かり易く情報提示する。	6ヶ月
2	13	災害対策として近隣住民の方の協力を得る働きかけを積極的に行ってこなかった。	災害対策を施設として徹底して継続訓練を行っていくこと。消防の方と地域住民の方も入った訓練を行えるようにしていく。	運営委員会や家族会で、具体的に訓練等を行う日時を提案して参加を促すことが出来るようにする。近隣自治会などを通じて訓練等への参加を募る情報発信をしていく。	6ヶ月
3	19	限りあるスペースの中で安全に配慮した物の配置や整理整頓を徹底しきれていない。	意図して利用者さんの興味や関心を持っていただくための物の配置や空間作りを行っているが、整理整頓がなされていない曖昧な空間もあるので、境界線をはっきりさせたい。	何故その場所に物があるのか？そこにある意味は何か？まず空間に配置したことを全員が理解し説明できるように、共通理解を図ったうえで居心地の良い空間作りを行っていく。	3ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。